社会福祉法人高槻ライフケア協会広報紙　第 131 号　2025 年 3 月 25 日発行

われもこう

題字　杉本　洋子さん

人生の一コマを残す仕事に就いて

コジマスタジオ　代表者　　児島　秀樹

児島写真館の創業は１９２４年、おかげさまで昨年１００周年を迎えました。（**写真は昭和30年頃の店舗**）岡山県津山市出身の私の祖父が、今の JR 高槻駅西口から JT 研究所に続く道沿いで最初にお店を構えており、その後、昭和２年に現在の芥川商店街に移ってきたと、子どもの頃に伝え聞いております。津山出身の祖父がどういう経緯で高槻に写真館を開いたかについては定かではありません。昭和 48 年(1973 年)店の改装を契機に、父が屋号を「コジマスタジオ」と改名しました。

祖父との思い出と言えば、うどんが好きで、よく買いに行かされました。また、子どもの頃は自家用車がなかった時代で、ハイヤーでいろいろな所に連れて行ってもらったみたいなのですが、あまり記憶に残っていません。子どもの頃に祖父と一緒に写った写真を見て、想像を膨らませております。

祖父の時代は一般にカメラが普及しておらず、現像液の配合や撮影、プリント作業など専門知識が必要となり、写真師として皆様から尊敬を受ける仕事でした。一眼レフカメラや、コンパクトカメラの台頭により、写真撮影の仕事の存在価値も年々うすくなってきました。近年ではスマートフォンの普及により、ますます写真を依頼されることも少なくなってきました。写真を、紙媒体で残すという風習も少なくなり、スマートフォンの中だけになってしまうようで危機感を感じています。

私が父から 3 代目として家業を継いで、今年で４０年になります。写真大学を卒業して、家業を継いだその年に、父親が病に倒れ、まだ右も左もわからないうちにいろいろな仕事を母と二人でこなしてきました。学校や幼稚園関係の仕事も多く、繁忙期は本当に寝る間もないくらい忙しく、若さで何とかこなせたと思っています。

モノクロ（白黒）写真の時代はほとんどが

家業で完結できていましたが、カラー写真の時代に入り、ラボ（現像所）との分業が主になりました。その分、撮影に力を入れることができ、様々な講習会に出向いてカラー時代の技術を勉強してきたのですが、その後デジタル時代になり、プリント以外では撮影データの現像からレタッチ（修正）など、新たに勉強しなくてはならなくなり、仕事としては昔のモノクロ（白黒）時代に戻ってしまいました。ただ、現像やプリントは、モノクロ時代は暗室での作業でしたが、デジタル化により、普通の明るい部屋で仕事ができるようになり便利になりました。

2018 年に病にかかり約半年間の入院生活を余儀なくされました。運良く、それまで世界中を飛び回っていた長男が、写真の道に進み、入院中から家内と次男、三男と母の５人で、家業を支えくれました。それ以来、長男が 4 代目として家業を継いでくれ、おかげさまで今なお仕事を続けておれます。

映像表現として、画面に映るものではなく、写真として紙媒体で実際に手に取って見ていただくことの価値をどのようにお伝えしていくかを常に考えております。このデジタル時代にいかに紙媒体での写真を残していけるかを、またお客様の大切な想い出を残す手段としての紙媒体での写真の魅力をどのように伝えるかの課題も真剣に考えて、仕事を続けていきたいと思っています。

長年、小さなお子様の写真を撮っていると、いろいろな場面に遭遇します。お医者さんと間違えて泣いているお子様、なぜかとても緊張されていて表情がこわばるお子様、自然な笑顔の表情になるように努力するのですが、なかなかこちらの思うようにはいきません。時間をかけるほど事態は改善されません。お子様の撮影は最初の何枚かが勝負です。反対に大人の方は、最初は緊張して、表情がこわばっていても、たくさんシャッターをきる内に表情がほぐれてきます。お客様が「ああ楽しかった」と言って帰って下さることが私たちにとっての何物にも代えがたいご褒美です。写真を撮るということは体力勝負だと思うようになりました。若い頃はあまりそんなことは考えたことはなかったのですが、病気以降、体力の低下が顕著なので、つくづく体力って大事だなと実感しております。それには健康でなければなりません。夏の暇な時期には低山に登ったりして体力を鍛えております。

年を取るとあまり感動する機会が少なくなってきたのですが、職業柄、幼稚園などの生活発表会や運動会そして卒園式などでは、小さな子ども達が一生懸命に取り組む姿にすごく感動させていただいております。とは言っても、感動するだけではいい写真は撮れないのですが、その感動を乗り越えて冷静な目で向き合うと、いい写真が撮れることがわかってきました。この年になっても、なかなかその境地にはなれないのですが、たまに“いい写真が撮れた”と思うことがあります。やっぱりいくつになっても写真は難しいです。どんな職業もそうでしょうが、一生勉強だと思っております。

これからも体力が続くかぎり、お客様の大切な人生の一コマを残す仕事を、頑張っていきたいと思っています。

▼たくさんのご来場、ありがとうございました！

映画「ケアニン」上映 ＆ 特別講演会

2025年２月８日（土）
高槻市立生涯学習センター多目的ホール

2025年２月８日、小規模多機能型居宅介護あすなろの開設 10 周年記念イベントとして、映画『ケアニン～あなたでよかった～』の上映会と特別講演会を開催しました。本イベントには地域の皆様をはじめ、福祉・介護に関心のある方々230 名にご来場いただきました。また、８つの協賛団体の皆様にもご支援をいただき、地域全体で介護について考える貴重な機会となりました。

映画『ケアニン』上映会では、小規模多機能型居宅介護の現場で奮闘する若者の姿がリアルに描かれ、多くの方が涙を流しながら観賞されました。上映後の感想として、「介護の大切さを改めて実感した」「利用者さんの人生にもっと寄り添いたい」など、心を動かされたという声が多数寄せられました。

続く加藤忠相さんの講演では、「住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために」をテーマにお話しいただきました。加藤さんは、「ケアとは “気にかける” こと」という言葉を通じて、介護の本質を伝えてくださいました。講演を聞いた職員からは、「利用者様の持つ力をもっと活かす介護を目指したい」「子どもたちや地域との交流が刺激になり、今後も継続していきたい」といった感想がありました。また、「一人ひとりの人生をより深く知り、その人らしいケアを考えていきたい」との意見も多く聞かれました。

また、ロビーでは協賛団体の皆様によるブース出展が行われ、地域の福祉や介護に関する情報提供がなされました。「地域の企業や団体がどのように福祉に関わっているのかを知る良い機会になった」「福祉を身近に感じることができた」と来場者からも好評をいただきました。

本イベントを通じて、介護の仕事のやりがいを再認識し、地域全体で支え合うことの重要性を改めて実感する機会となりました。職員にとっても「これからの介護にどう向き合うべきか」を考える大きなきっかけとなり、日々の業務に新たな視点を取り入れる機会となりました。

小規模多機能型居宅介護あすなろは、これからも地域に根差した介護を実践し、皆様とともにより良い福祉の未来を築いてまいります。ご参加いただいた皆様、協賛団体の皆様、そして運営に携わってくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします！

訪問介護

訪問介護は、ご利用者のお宅に訪問してケアを行います。こちらは当たり前と思って訪問していますが、“自分が訪問される側になったらどうだろう”と思うと何となく気が引けそうです。

今、訪問させていただいているご利用者やご家族も初めは抵抗があったかもしれませんが、皆さん温かく迎えてくださっています。

ある日、失敗して気持ちが落ち込んでいる時、何とか気持ちを切り替えて訪問した帰り際、ご利用者がにっこり笑って手を振って下さいました。手を振って「さようなら」と言ってくださっているだけなのに、なぜかとても温かい気持ちになりました。普段無口な方が、笑顔で「ありがとう」と言ってくださったり、「寒い中ご苦労さん」「気をつけて帰りや」と心配してくださる方もおられ、「こちらこそありがとうございます」という気持ちでいっぱいです。そんなご利用者の皆さんから、私も力をいただいています。（T）

事業所だより

小規模多機能型居宅介護
あすなろ

毎月お誕生日会を開催しています

その月にお誕生日を迎えられるご利用者を、皆で心を込めてお祝いする特別な時間です。健やかにまた一つ歳を重ねられた喜びを分かち合い、日頃の感謝の気持ちを伝える大切なひとときでもあります。

お誕生日会では、毎月職員の手作りのバースデーケーキをご用意し、温かい雰囲気の中でお祝いします。ご利用者の中にはピアノが得意な方もおり、職員とともに生演奏を披露してくださることも。ピアノの音色に合わせ、皆で歌を歌い、ご利用者・職員からお祝いのメッセージを贈ります。最後には、この日の主役であるご利用者からお返しの言葉をいただくこともあり、時には感動で涙を流される場面も…。毎月のこのひとときが、ご利用者にとっても、職員にとっても、心温まる素敵な思い出となっています。これからも「あすなろ」では、ご利用者一人ひとりの人生を大切に、皆で笑顔あふれる時間を共有してまいります。

くらし創造の家 朋(とも) 小規模多機能型居宅介護

おやつといえば甘いものを作ってしまいがちですが…、この日リクエストされた利用者さんは甘いものがちょっと苦手。今ある材料で考えた末、お好みクレープを作ることにしました。粉と水の生地にソースとマヨネーズを挟み込んで焼くだけのシンプル下町Ｂ級グルメ。これ、スタッフが幼い頃に作ってもらった懐かしの味なんです。これが一銭洋食やイカ焼きを彷彿とさせるようで。「なんや懐かしいな」「パクパクいけるわ」と、即席おやつは利用者さんもお気に召されたようでした！

定期開催になりつつある(?)ココスの外食レクリエーションも好評でした。いつもとちがう雰囲気のなか、興奮気味の利用者さんたち。ワイワイがやがや！ハンバーグ、スパゲッティ…洋食三昧舌鼓！配膳ロボットにも大歓声！もちろんデザートは別腹で、退店時にはホクホク顔で「次は寿司連れてってな」ハイ、承知いたしました！

地域交流センターあすなろ

昨年の夏の養生から始まった教室も季節を一巡して、春の養生になりました。

立春～穀雨(2/4 頃から 5/5 頃)「肝」に影響を及ぼします。「肝」とは、肝臓、胆のう、目、爪、筋肉をさします。

・血液循環の調節、貯蔵・肝臓の代謝と解毒・胆汁の分泌と排泄
・情緒と精神状態の安定・全身の筋肉、関節をスムーズに動かすなどの働き

養生

・締め付けないゆったりとした服を着る
・香りのよいものの活用

和漢薬膳教室４　春の養生２月２７日

・伸び伸びと気持ちよく陽気を浴びて散歩

食材さっぱりとした味付けで温性のもの、「甘」も取り入れる

酸味…血液の浄化、解毒　血管、皮膚、筋肉の引き締めなど
旬…筍、菜の花、ふき、玉ねぎ、キャベツ、ジャガイモ、そら豆など
青(緑)色…ほうれん草、小松菜、春菊、ブロッコリー、セリ、青背の魚など

◇今回の「薬膳茶」はカモミールジャーマン、マイカイカ、決明子、陳皮でした。

＊2025 年度は第２シリーズを開始します

研修報告

認知症介護実践者研修

11 月 5 日～1 月 8 日まで開催された認知症実践者研修を受講しました。認知症ケアの理念、生活支援の為のケア、QOL を高める活動と評価の観点、家族介護者の理解や支援、権利擁護に基づく支援、地域資源の理解とケアの活用、アセスメントケアの実践の基本などを座学で学びました。そこから“ひもときシートアシスト”という様式を使い(3段階ステップを通じ、援助者自身の施行の転換を行うシート)、評価的理解、分析的理解、共感的理解を整理し演習を行いました。初めて“ひもときシートアシスト”を使いアセスメントしましたが、様々な視点で考えることができわかりやすかったです。その後、自職場実習を行いました。私が実践したケア計画は、その方が自分の気持ちを表出できるように“気持ちの絵カード”を使い、今の気持ちをお聞きするというものでした。このケアを実施し、一人のご利用者にゆっくりと寄り添い、その人の本当の想いをお聞きすることができました。今回の研修では、その方に寄り添ってケアを行い、常にアセスメントケアの実践者として役割の理解と技能を磨き、より良いケアを提供していくことを学びました。

(H)

令和６年度大阪府
医療的ケア児等支援者養成研修

令和７年１月 16 日・１月 20 日の両日、大阪私学会館で行われた医療的ケア児支援者養成研修を２名のスタッフが受講しました。医療技術の進歩等を背景として、NICU 等に長期間入院した後、退院後も引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たん吸引や経管栄養などの医療的ケアが必要な障がい児(医療的ケア児)等が増加しています。この研修は、こうした状況を踏まえ、医療的ケア児等が地域において必要な支援を受けながら安心して生活し続けることができるよう、支援者を養成する目的で実施された研修です。

・印象に残ったのは「口腔ケア」の項目で、配慮された事例動画を見ることができとても分かりやすく、その口腔ケアの方法が、自分の関わっているＡ利用者さんに活用できると思いました。手作りの吸引歯ブラシの作製方法を学び、実際に作ってケアを実施できました。

・「遊びを通した発達支援」具体例として、日常生活動作で指が開くように、このような遊びを通して行いましょう、という事例動画を見てとてもよく理解できました。(N)

しまバァの簡単おやつ

春がきました。心もあたたかくなり、
簡単おやつを作ってみんなで
お茶会しましょう。
簡単メニューをご紹介します。

≪桜餅≫

白玉粉 30g　砂糖大２　小麦粉 100ｇ
水１と 1/2 カップ　食紅少々　市販の餡
〈皮の作り方〉
・ボウルに白玉粉を入れ、水を加える
・なめらかになるまで混ぜ、砂糖、小麦粉の順に加える
・フライパンに油を薄く引き弱火にかける
・生地を薄くのばし円形に広げる
・表面が乾いて透き通ってきたら裏返す
・四つ折りにして、丸めた餡をしのばせる

≪さつまいも団子≫

さつまいも　砂糖少々　ココアパウダー少量
・さつまいもを蒸して、つぶして、砂糖少量を入れる
・食べやすい大きさに丸める
・ココアパウダーをかける

同行援護従業者養成研修開講のご案内

視覚障がいのある人への外出支援　ガイドヘルパーの資格取得研修

2025 年４月から同行援護従業者養成研修カリキュラム改正のため一般課程の講義・演習時間が増えました。応用課程は、サービス提供責任者の必須研修です。

■日程

一般課程	５月 20 日(火)・21 日(水)・22 日(木)・27 日(火)・29 日(木)
応用課程	６月４日(水)

■会場：くらし創造の家　朋　(高槻市富田町４丁目 17-10)

■お問合せ：高槻ライフケア協会まで

サービス提供実績報告(2024 年 12 月～2025 年 2 月)

≪訪問介護≫

利用者数	125　人
利用時間	1,455.0　時間
生活援助	325.5　時間
身体介護	492.0　時間
身体生活	637.5　時間

≪障害福祉・居宅介護≫

利用者数	224　人
利用時間	3,032.3　時間
家事援助	1,194.3　時間
身体介護	1,621.5　時間
通院介助	216.5　時間

≪介護予防訪問介護≫

利用者数	85　人
利用回数	574　回

≪重度訪問介護≫

利用者数	6　人
利用時間	198.5　時間

≪ケアワーカー派遣サービス≫

利用者数	31　人
利用時間	60.0　時間
家事援助	43.0　時間
身体介護	17.0　時間

≪同行援護≫

利用者数	78　人
利用時間	881.0　時間

≪小規模多機能型居宅介護≫登録人数平均

くらし創造の家 朋(とも)	16.6 人
あすなろ	18.3 人

≪移動支援≫

利用者数	154　人
利用時間	1,283.5　時間

≪短時間デイサービス≫利用人数平均

地域交流センターあすなろ	0 人

＊短時間デイサービスは２月１日付で
休止しました。

編集後記

寒さの中にも少しずつ春の気配を感じる季節となりました。日々の業務に追われながらも、利用者さんの笑顔や「ありがとう」の言葉に支えられる日々です。本号を通じて、皆さまとともに福祉について考えるきっかけになれば幸いです。これからも、現場での気づきや学びを大切にしながら、一歩ずつ前へ進んでいきたいと思います。(U)

社会福祉法人高槻ライフケア協会

〒569－0806　高槻市明田町 5 番 7 号　TEL(072) 683-4945　http://tlca.info/